

CSR活動方針

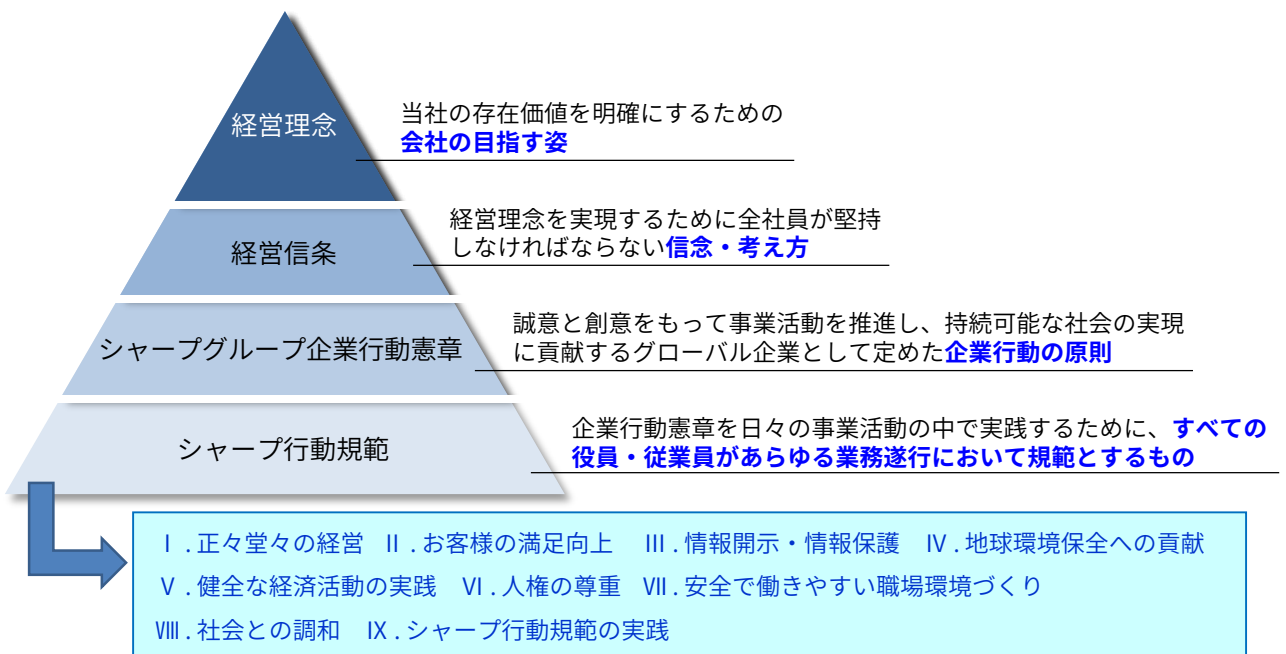
シャープグループ企業行動憲章・シャープ行動規範

シャープでは「経営理念」「経営信条」に則ってCSR活動に取り組んでいます。経営理念を実現し、経営信条を実践していくために、グループ企業の行動原則として「シャープグループ企業行動憲章」を、また役員・従業員の行動規準として「シャープ行動規範」を定めています。

シャープグループ企業行動憲章では、誠意と創意をもって健全な事業活動を推進し、社会の一員として、その責任を果たすことにつとめ、持続的成長が可能な社会の実現に貢献するグローバル企業として、9項目の企業行動原則を定めています。

シャープ行動規範は、すべての役員・従業員がシャープグループ企業行動憲章を実践するために定めた行動規準です。事業活動のすべての範囲において、この規範に沿って業務推進することを求めています。

シャープグループ企業行動憲章、シャープ行動規範については、変化するステークホルダーの期待や法令などの改正・新設、経営環境の変化を踏まえて、適宜見直しを行っています。また、世界各国のグループ企業でもその適用を取締役会で決議するとともに、毎年実施する社内研修などを通じてシャープグループ企業行動憲章、シャープ行動規範の徹底・浸透を図っています。



関連情報：>[シャープグループ企業行動憲章・シャープ行動規範](#)

国連グローバル・コンパクト、ISO26000などの活用

シャープでは、CSRに関する国際ガイダンス規格のISO26000、国連グローバル・コンパクト、OECD 多国籍企業行動指針などを活用し、CSRの取り組みを推進しています。

「国連グローバル・コンパクト」には2009年6月に参加しており、10原則を踏まえて人権、労働、環境、腐敗防止における各種施策を展開しています。

今後も引き続き、グローバル企業として、途上国での労働問題、紛争地域での人権侵害などの社会的課題の実効的な解決に向け、継続的に日本国内外でのCSR活動に取り組み、拡充を図ってまいります。

関連情報：>[United Nations Global Compact](#)

CSR活動方針 —社会環境責任 (Social and Environmental Responsibility) 強化の取り組み—

シャープSER※方針の策定

当社では、2016年の新経営体制への移行に伴い、CSR推進体制についても新たな「経営基本方針」に基づき見直しを行いました。シャープグループとして社会環境責任 (Social and Environmental Responsibility) を果たし、実現するため、2016年12月に「SER方針」を制定しました。

SER方針

- ①従業員の権利を重視し、従業員の健康及び安全を確保する。
- ②事業活動及び製造過程における環境責任を果たす。
- ③国際標準、法規制、顧客の要求に基づいたSERマネジメントシステムの構築を行い、運用する。

※ Social and Environmental Responsibility

シャープSER委員会の設置

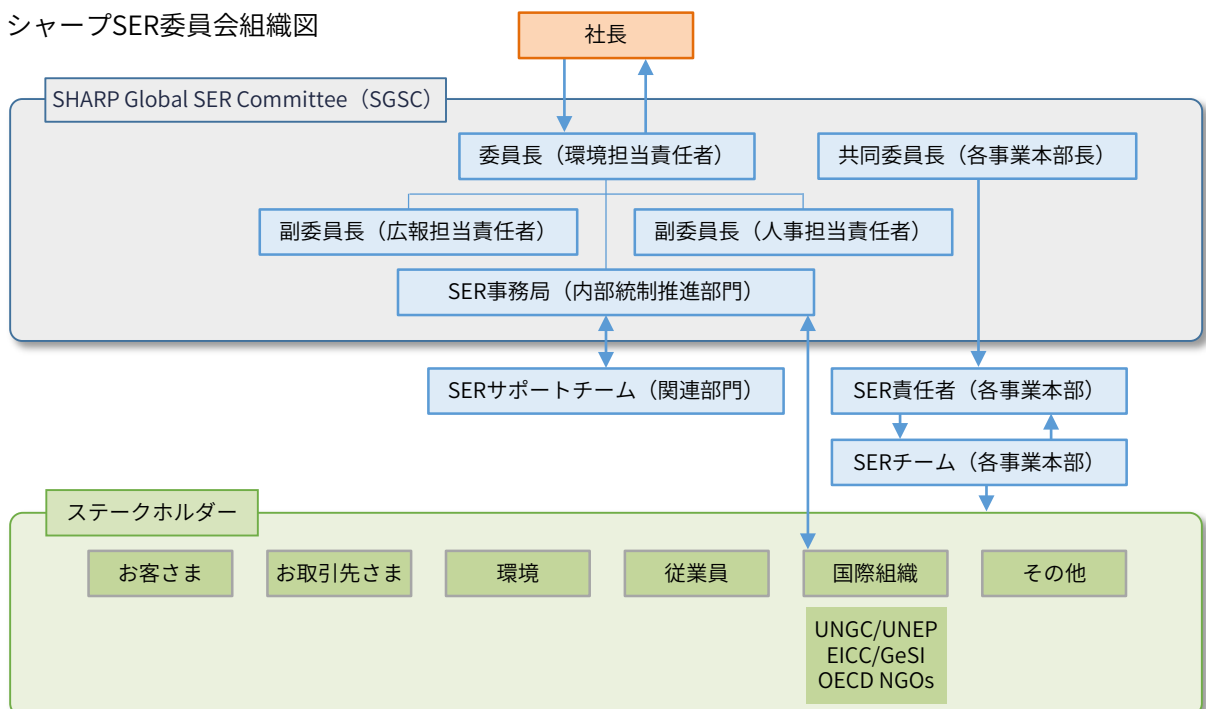
SER方針を実現するために、2016年12月に環境担当責任者を委員長とするシャープSER委員会 (SHARP Global SER Committee) を立ち上げました。また、SER委員会の運営について定めた「シャープSER委員会運営要綱」を制定しました。

SER委員会では、SERガイドラインの策定と各事業本部への提案、社外への情報開示、ステークホルダーコミュニケーションなど、シャープグループ全体のSER活動推進に関連する事項についての意思決定を行っています。これに加え、SERマネジメントシステムを構築することで、各事業本部が主導的にSER施策を推進できるようフォローしています。

また、SERに関連する重要事項を審議・決定し全社展開を図るため、共同委員長 (各事業本部長) 出席のもと定期的に「SER会議」を開催しています。

今後も、SER委員会の運営を通じて、安全や健康、環境責任を重視したシャープグループのSERの取り組みを効果的に推進し、企業としての社会的責任を着実に果たしてまいります。

■ シャープSER委員会組織図

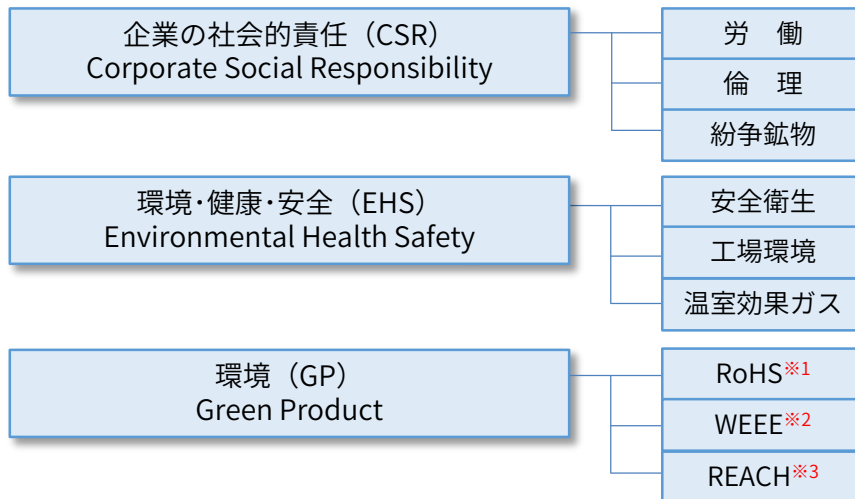


CSR活動方針 —社会環境責任（Social and Environmental Responsibility）強化の取り組み—

SER施策の推進

SER活動を推進するための具体的な施策については、以下のテーマに関連するSER施策指針をSER事務局およびSERサポートチームが、各事業本部と連携して策定しています。

■ 推進テーマ



それらのSER施策指針から各事業本部は自らにとって重要なものを選択し、SER施策（目標、評価指標KPI、対象範囲、実行計画など）を定めて、推進しています。

SER委員会は四半期ごとに各事業本部のSER施策推進状況を確認し、適宜フォローを行います。

■ SER施策指針（抜粋）

テーマ	施策	対象範囲
労働・安全衛生	健康障害に繋がる長時間労働の抑制	日本国内全従業員
労働・倫理	ハラスメントの防止	日本国内全従業員
労働・倫理	海外拠点における人権尊重の推進	海外拠点の従業員
工場環境	廃棄物の排出抑制・再資源化	全生産事業所
温室効果ガス	事業に伴う温室効果ガス排出抑制（エネルギー使用効率の向上）	全生産事業所
RoHS	EU RoHS指令が定める新規制限物質※4の排除	全事業本部
WEEE	EU WEEE指令等の各国廃電気電子機器リサイクル法が定める要求を順守	全事業本部
REACH	EU REACH規則が定める高懸念物質※5の管理	全事業本部
紛争鉱物	紛争鉱物関連法規制への適応と効率的な対応	該当事業本部
全般	サプライヤーSER管理体制の再構築	お取引先
全般	顧客からの調査監査依頼への対応	日本国内全生産事業所 および 連結対象生産子会社

※1 RoHS=Restriction of Hazardous Substances（欧州連合による電気・電子機器における特定有害物質の使用制限指令）

※2 WEEE=Waste Electrical and Electronic Equipment（欧州連合による電気・電子機器の廃棄に関する指令）

※3 REACH=Registration, Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemicals（欧州連合による化学物質の登録、評価、認可及び制限規則）

※4 フタル酸エステル4物質（DEHP、DBP、BBP、DIBP）主に、樹脂の可塑剤として使用されている

※5 人の健康および環境に対して高い懸念のある物質

CSR重点項目（マテリアリティ）の特定

ステークホルダーとシャープグループの持続的な発展のためには、ステークホルダーの意見や期待を取り入れながらCSR活動を行い、社会的責任を果たしていくべきであると考えています。シャープの事業活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、ステークホルダーの意見や期待を整理しながらCSRの重要な課題を抽出しました。そこからCSR重点項目（マテリアリティ）を特定し、CSRマネジメントPDCAサイクルに組み込んでいます。

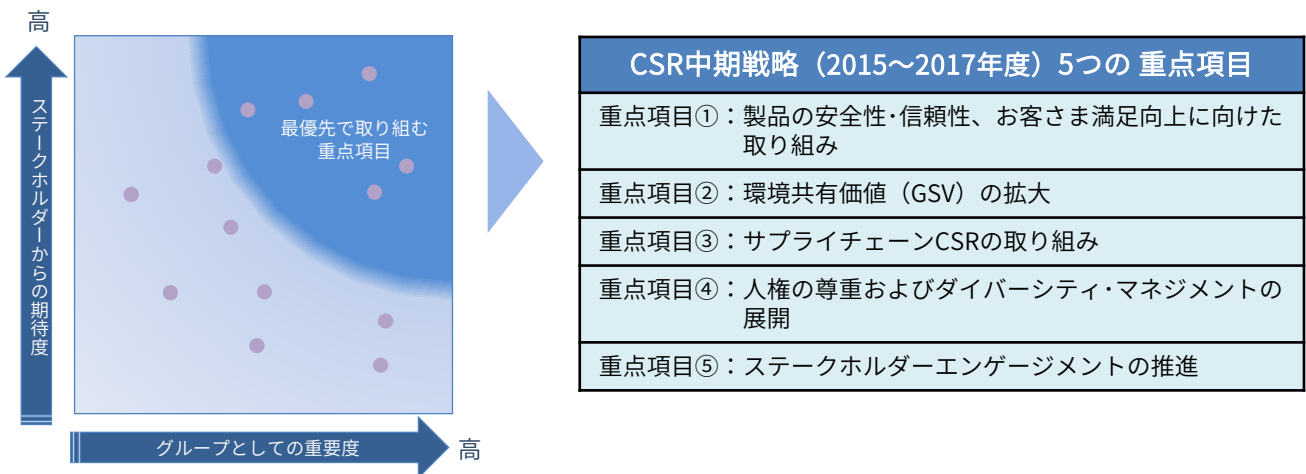


重要課題の確認

各種調査結果や他社動向も踏まえながら、お客さまをはじめ、地域社会、お取引先さま、株主・投資家さま、従業員などのさまざまなステークホルダーの皆さまからの意見や期待を整理して、重要課題を抽出しました。

CSR重点項目（マテリアリティ）の特定

抽出したCSRの重要な課題は「社会にとっての重要度（ステークホルダーからの期待度）」と「グループにとっての重要度」という2軸の観点でマッピングして優先順位を付け、CSR重点項目（マテリアリティ）を特定しました。



CSRマネジメントへの組み込み

特定したCSR重点項目は、当社の事業が持つ特性や展開地域などを念頭に、シャープグループ企業行動憲章をベースに整理し、CSR中期戦略（2015～2017年度）を策定しました。

CSR中期戦略は、各推進部門で管理指標（KPI）を設定し、CSRマネジメントPDCAサイクルに組み込んで、Plan（計画）⇒ Do（実行）⇒ Check（評価）⇒ Action（改善）を実践しています。

それぞれの施策につきましては、社会の変化に合わせて、必要に応じて見直しを図っています。

CSR 5つの重点項目

重点項目①製品の安全性・信頼性、お客さま満足向上に向けた取り組み

消費者課題への意識が高まる中、シャープグループは「お客さま満足（CS）」を基軸として、常にお客さま目線で考え、お客さまの立場で製品・サービスを開発・提供することを基本にしてきました。

これからもお客さまを第一に考え、社会的に悪影響を及ぼさないために、リスクを最小限に抑えた安全で快適な製品・サービスを提供することが使命と考えています。

CSR中期戦略 重点項目の（目指すべき）ゴール

「製品の安全性と信頼性の確保」と「お客さま満足向上」の実践により、お客さまとの信頼関係を築く。

※自己評価◎：目標を上回る成果があった ○：目標を達成 △：一定の成果があった

2016年度施策	2016年度実績	自己評価※
安全性と信頼性の確保および使いやすさの向上による安心・安全な製品の提供	<ul style="list-style-type: none"> ■安全審査、信頼性試験及び使用性審査の確実な実施により、品質を改善 ・設計技術者を対象とした製品安全技術研修の実施 ・信頼性設計に関するガイドラインの整備 ・使用性審査、研修等によるユーザー中心設計（UCD）の取り組み強化 	○
アフターサービスのお客さま満足向上	<ul style="list-style-type: none"> ■（日本国内/海外）サービス技術・応対力強化により、お客さま満足度は目標を達成 ・（日本国内）全国のサービス拠点でお客さま応対事例に基づく研修会を開催 ・（海外）アセアン主要拠点で『CSマインド研修』を実施 	○
2017年度施策	管理指標	対象範囲
安全性と信頼性の確保および使いやすさの向上による安心・安全な製品の提供	重要品質問題発生件数	日本国内／海外
アフターサービスのお客さま満足向上	お客さま満足度	日本国内／海外

重点項目②環境共有価値（GSV）の拡大

世界的な人口増加や経済発展に伴い、エネルギー消費の増加や鉱物・水資源などの不足および自然破壊などの環境問題が顕著になる中、シャープグループは環境方針「環境共有価値（GSV）の拡大」を掲げて事業活動を推進しています。

最重要課題の一つである低炭素社会の実現に貢献するため、「環境配慮型製品の創出拡大」と「事業活動によるエネルギー使用効率の維持・向上」に重点的に取り組んでいます。

CSR中期戦略 重点項目の（目指すべき）ゴール

「環境配慮型製品の創出拡大」と「事業活動によるエネルギー使用効率の維持・向上」を通じて、低炭素社会の実現に貢献。

※自己評価◎：目標を上回る成果があった ○：目標を達成 △：一定の成果があった

2016年度施策	2016年度実績	自己評価※
環境配慮型製品の創出拡大	<ul style="list-style-type: none"> ■スーパーグリーンプロダクト（SGP）の認定機種数：52機種 	○
エネルギー使用効率の維持・向上	<ul style="list-style-type: none"> ■日本国内全13工場でのエネルギー使用効率の適正水準を維持 	○
2017年度施策	管理指標	対象範囲
環境配慮型製品の創出拡大	スーパーグリーンプロダクト（SGP）の認定機種数	日本国内／海外
エネルギー使用効率の維持・向上	エネルギー使用効率の向上率（2012年度比）	日本国内／海外

CSR 5つの重点項目

重点項目③サプライチェーンCSR取り組み

シャープグループでは、グローバル・サプライチェーンにおける人権や労働問題、自然破壊等の環境問題などの社会的課題に対する関心の高まり、そしてこれら諸課題の解決に向けたグローバル企業が果たすべき貢献への期待に応えていくことの重要性を認識しています。

サプライチェーンでのCSR取り組みの促進を通じて、このような環境変化に適切に対応し、顧客企業さまやお取引先さまなどのステークホルダーとの信頼関係を強化していきたいと考えています。

CSR中期戦略 重点項目の（目指すべき）ゴール

自社工場および取引先工場へのCSR調達調査と、CSR調達リスク評価、監査の仕組みの定着を通じた、顧客企業を含む社外からの信頼・評価の獲得。

※自己評価 ◎：目標を上回る成果があった ○：目標を達成 △：一定の成果があった

2016年度施策	2016年度実績	自己評価※
自社工場CSR調査範囲の拡大および定着	■調査対象を日本国内外25工場に拡大して調査を実施（前年度は9工場）	○
取引先CSR・グリーン調達調査実施の定着	■CSR・グリーン調達調査を日本国内外拠点にて実施し、取引先回答率目標値を達成	○
顧客企業CSR基準への適合	■顧客企業CSR監査における指摘事項が減少	○
2017年度施策	管理指標	対象範囲
自社工場CSR調査の定着とパフォーマンスの継続的改善	CSR調査実施工場数 調査回答工場の評価スコア	日本国内全生産事業所および 連結対象生産子会社
取引先CSR・グリーン調達調査改善に向けたシステムの全面刷新	新システムの稼働と一部生産拠点での試行導入	一部生産拠点
顧客企業CSR基準への適合	顧客企業CSR監査における重要指摘事項件数	特定重点管理工場

重点項目④人権の尊重およびダイバーシティ・マネジメントの展開

シャープグループは、ビジネスのグローバル化に対応する中、異なる文化、習慣などをもつ者同士が共に働く機会が飛躍的に増えており、企業が注意を払わなければならない人権問題が多様化・複雑化しています。さらに国籍、性別、年齢などにかかわらず優秀な人材の登用とリテンションが喫緊の課題となっており、戦略的なダイバーシティ・マネジメントの展開に取り組んでいます。

CSR中期戦略 重点項目の（目指すべき）ゴール

ダイバーシティ推進の促進により、従業員の能力や働きがい・意欲を高め、組織の活性化を図ることで、より高付加価値かつ革新的な商品・サービスを提供。

※自己評価 ◎：目標を上回る成果があった ○：目標を達成 △：一定の成果があった

2016年度施策	2016年度実績	自己評価※
女性活躍推進法の行動計画に基づく施策推進	■2017年4月1日時点 女性管理職比率：3.3%（前年同率）	○
障がい者雇用率の維持	■障がい者雇用率：2.47%	○
パワーハラスメントの防止	■職場満足度調査における職場・上司満足度 2014年度比 職場満足度：+0.01ポイント／上司満足度：+0.03ポイント	△
2017年度施策	管理指標	対象範囲
女性活躍推進法の行動計画に基づく施策推進	女性管理職率5%以上（2019年度末までに）	シャープ（株）
障がい者雇用率の維持	障がい者雇用率2.4%台の維持	シャープ（株）、シャープ特選工業（株）、一部日本国内関係会社※1
パワーハラスメントの防止	職場いきいき調査※2における職場満足度、上司満足度の向上	日本国内シャープグループ従業員および海外拠点出向者

※1 対象範囲は官公庁の定めによる ※2 職場風土調査

CSR 5つの重点項目

重点項目⑤ステークホルダーエンゲージメントの推進（地域社会への貢献）

シャープグループの事業領域や展開地域の持続的な発展に向け、企業の社会的責任の一端を果たすべく、特に「コミュニティへの参画及びコミュニティの発展」※1を意識した取り組みを推進しています。地域の方々との協働作業や対話などを通じて、得られたものを当社の事業活動に活かし、さらなる発展に繋げていきたいと考えています。

CSR中期戦略 重点項目の（目指すべき）ゴール

適切なコミュニケーションを通じ、人に寄り添える企業として地域との良好な関係を構築する。
またこれらによる企業活動へのフィードバックを通じ、価値創造の一助とする。

※自己評価 ◎：目標を上回る成果があった ○：目標を達成 △：一定の成果があった

2016年度施策	2016年度実績	自己評価※
地域社会貢献活動への参画	■シャープグリーンクラブ（SGC）※2活動などの実施回数を維持 環境・生物多様性保全活動／地域社会と連携した活動回数 延べ 1,098回 家族他を含む参加人数 延べ 17,817名	○
2017年度施策	管理指標	対象範囲
継続して、地域社会貢献活動への参画	社会貢献活動の実施回数の維持	日本国内シャープグループ

※1 ISO26000 社会的責任の中核主題（7題の1つ）

※2 労使共同で運営するボランティア団体。森林保全や地域のクリーンアップ活動などを展開。